

認知症支援チームの活動と各府県士会の動き



松下 太(まつした ふとし) 大阪府士会

略 歴

現職：森ノ宮医療大学 保健医療学部 作業療法学科 教授
一般社団法人大阪府作業療法士会 副会長
学位・資格：博士（医学）、専門作業療法士（認知症）、社会福祉士、福祉用具プランナー、認知症ケアマッピング基礎コース受講（基礎ユーザー資格認定）

2015 年に「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」が策定され、その 7 つの柱のうち「認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供」を実現するために「認知症初期集中支援事業」が誕生した。また、2019 年には認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進する「認知症施策推進大綱」が定められた。このような時代背景を基に認知症の人に対する作業療法も、病院や施設での介入のみならず、地域共生社会の中での作業療法士へのニーズが高まっている。

近畿作業療法士連絡協議会では、これら認知症施策に対応するために、平成 25 年度より各士会から代表者を選出しワーキングチームを編成している。このチームでは、各士会での認知症関連事業の進捗状況確認や、研修会内容の情報交換、連絡協議会として年に 1 回の研修会の開催等、定期的に活動を行ない、認知症施策に関する連携を深めている。また、平成 28 年度には、日本作業療法士協会から認知症アップデート研修を各士会で進めていくことが示され、各士会がこれに取り組み、領域を飛び越えた多くの会員が認知症に対応できる知識や技術を研鑽してきたが、各士会によっては更に特色のある認知症関連事業に取りかかっているところも散見されるようになり、それぞれの士会の特徴というものが現れつつある。このような中で、それぞれの士会の特徴をさらに盛り上げていくことはもちろんであるが、先駆的に取り組まれている他の士会の事業を共有し、参考にしていくことで、近畿 2 府 4 県の作業療法士会の認知症に関する事業の底上げにも繋がっていくと考えられる。

当日は、各士会における認知症関連事業に関する前年度の報告と今年度の事業計画についてと、近畿作業療法士連絡協議会の「認知症支援チーム」の今後の活動予定について報告する。